

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

令和5年4月に全国の小学校6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査が行われました。この度結果が送られてきましたので、調査結果の概要と今後の指導方針についてお知らせいたします。

【教科別学習状況調査の結果】

	国語	算数
	平均正答率 (%)	
本校	58	54
神奈川県 (公立)	66	63
全国 (公立)	67	62.5
具体的な学習状況	<p>○よい状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する力。 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章全体を整える力。 漢字を文の中で正しく使う力。 	<p>○よい状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる。 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができる。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 百分率で表された割合を分数で表す力。 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる力。
課題に対する改善の手立ての一例	<ul style="list-style-type: none"> 文書における因果関係の読み取りや筆者の考えの根拠がどこに書かれているのかを授業で丁寧に行う。 語彙を増やし、知識の定着ができるように、普段から意識して習った言葉を活用したり、短い文章を書いたりする言語活動を重点的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本となる計算力の習得については、スキルタイムや家庭学習を活用し、根気強く取り組み、定着を図る。 既習事項を活かして問題を解くことができるようにするために、授業のなかで、応用問題に取り組む機会を増やすようにする。

【児童質問紙調査（児童意識調査）の結果】

◇特徴

- 学校でのICT機器の利用頻度が高く、効果的に使用できている。
- 地域の行事に多く参加し、地域を良くしようとする意識が高い。
- 各教科の学習に関して好きだと答える児童が多い一方で、内容は理解していない。特に、算数に関する苦手意識が高く、問題が理解できないとすぐ諦めてしまう傾向にある。
- 携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方を家の人と約束を守っている児童が少ない。
- 一日あたりのゲームの利用時間が長い傾向にある。

◆今後の手立ての一例

- 授業の中で、1時間の学びを振り返る時間を十分に確保し、学んだことを自分の言葉で表現し、しっかりと認知できるようにする。
- 学習計画を立てる際、着実に学習能力が身に付くように単元を工夫するとともに、既習事項を活用する場を多く設定するようにする。